

大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択) 東京藝術大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(トルコ))

Global Arts Crossing ～ 中東地域との戦略的芸術文化外交 ～

【事業の概要】

グローバル化の急速な進展に伴う新たなフロンティア開拓等諸課題に即応するためには、国際舞台で活躍できる芸術家育成をはじめ、世界各国の“芸術文化リソース”を活かした国際的な芸術活動等国境を超えた展開が必要不可欠である。

そのため、我が国同様、芸術文化・観光振興を政策に掲げ、東洋と西洋の芸術文化が交錯・融合する「中東地域」をターゲットに、多数の歴史的な文化財や建築、工芸等、世界的に稀少価値が高く魅力的な芸術文化リソースを有するトルコ共和国のミマル・シナン美術大学及びアナドル大学、イスラエルのベツアルエル美術デザインアカデミーの中東3大学と国際連携ネットワーク基盤を確立して、学生の相互交流拡充や国際共同プロジェクト実践等を加速度的に実行し、グローバルに展開できる芸術家育成を戦略的に推進することにより、人材育成等の国際交流を通じた「芸術文化外交」を実現する。



○事業実施に伴う大学の国際化・情報発信

- ◆「ブランディング戦略」としての事業成果等多言語発信
- ◆「アートコンソーシアム」新設による関係機関連携強化
- ◆「留学力水準認定」等グローバル化に対応した事務体制強化
- ◆「グローバル戦略評価・検証委員会」による第三者評価実施・結果公表 等

○環境・体制整備

- ◆「グローバルサポートセンター」による総合的支援
- ◆「アーティスト・イン・レジデンス」機能強化
- ◆「連携大学連絡会議」「産学官グローバル人材育成連絡会議」新設
- ◆「リスクマネージャー」配置や「派遣前研修」徹底等安全危機管理体制強化 等

【交流プログラムの概要】

「多様性」を基軸とした「Diversity Crossing Program」として、各国の特色ある芸術文化リソース等を最大限活用し、教員・学生の多国籍ユニットによる国際共同プロジェクトを基盤とする実践型プログラムを展開する。具体的には、9つの専攻分野を対象に、①Short Crossing: 1か月未満、②Middle Crossing: 1か月～3か月、③Long Crossing: 3か月以上 の3つの期間設定により構成され、ジョイントディグリーや履修証明、公開型審査等による質保証システムをはじめ、学生派遣・留学生受入に係る支援や安全・危機管理の強化、アーティスト・イン・レジデンス機能の活用等総合的なサポートシステムを構築する。

【本事業で養成する人材像】

自国の芸術文化の承継・発展への貢献意欲を有するとともに、他国の芸術文化に対して深い造詣や尊敬の念を有し、世界各国における芸術文化の多様な価値や魅力を十分に理解した上で新たな創造に繋げることのできる先導的な人材、国際舞台においてオリジナリティやアイデンティティ、豊かな表現力や創造力を発揮して活躍できる傑出した芸術家を養成する。

【本事業の特徴】

芸術分野固有の特性を踏まえた6つの「多様性(Diversity)」を基軸としたグローバル展開プログラム(Diversity Crossing Program)であることが大きな特徴であり、具体的には、①専攻分野、②プログラム実施期間、③学生・国籍、④ロケーション、⑤芸術文化リソース、⑥ステークホルダー の6つの要素によりプログラムを構成し、将来的にはアジア・欧米を含めたグローバルワイドなジョイントプログラムとして発展させ、普遍的な「芸術文化外交」の実現を目指す。

【交流予定人数】

	H27	H28	H29	H30	H31
学生の派遣	11 (トルコ⑦・イスラエル④)	17 (トルコ⑩・イスラエル⑦)	25 (トルコ⑬・イスラエル⑨)	28 (トルコ⑯・イスラエル⑩)	30 (トルコ⑲・イスラエル⑪)
学生の受入	10 (トルコ⑥・イスラエル④)	14 (トルコ⑧・イスラエル⑥)	22 (トルコ⑭・イスラエル⑧)	23 (トルコ⑰・イスラエル⑧)	25 (トルコ⑱・イスラエル⑨)

1. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【Global Arts Crossing ~ 中東地域との戦略的芸術文化外交 ~】(選定年度27年度・主たる交流先(トルコ))

■ 交流プログラムの実施状況

平成27年度は、トルコ国内での度重なるテロ発生をはじめ中東地域の治安が著しく悪化した為、日本人学生の派遣プログラムを計画通りに実施することが困難だったが、一方で、連携大学の外国人留学生については、交換留学1名、ショートプログラム12名と、**計画人数を上回る合計13名の学生を受け入れ、連携大学の教員招聘等と併せ多様な交流活動を実施した。**

	H27	
	計画	実績
学生の派遣	11	2
学生の受入	10	13

東京藝術大学 × アナドル大学

工芸分野の学生3名を受け入れ、併せて招聘した先方の教授による「**ラスター彩(イスラム圏の陶器)**」に関する特別講義を開催。ラスター彩の歴史や表現、特殊な焼成技法などが教授自身の作品を交えながら説明され、参加学生らは中東の珍しい技法に大変興味を持ち、多くの質問が出された。また、**陶芸家・三上亮氏の工房を訪問し、ワークショップを実施**。参加学生らは、陶芸素材およびロクロに関する技術について意見交換を行うことで、日本陶芸の見識を深めた。



〈アナドル大学からの招聘教員による「ラスター彩」についての特別講義〉



〈陶芸家・三上亮氏の工房でのワークショップ〉

東京藝術大学 × ミマール・シナン美術大学

彫刻分野の学生2名と建築分野の学生2名を受け入れ、期間中、横浜美術館の荒木悠展・複製神殿、村上隆スーパーフラットコレクション展を訪れた。**荒木悠氏からは展示について説明を受け、質疑応答など直接交流する機会が設けられた。**また、**横浜美術館の学芸員から、美術館の活動等についてレクチャー**を受け、トルコの芸術系機関との比較や文化的な活動に関する新たなアイデアを模索する意見交換が行われた。



〈横浜美術館での芸術文化体験〉



〈建築科アトリエでのレクチャー〉

東京藝術大学 × ベツアルエル美術デザインアカデミー

ファインアート分野の学生3名とデザイン分野の学生2名を受け入れ、**両校の学生5人ずつが英語による公開型トークセッションを開催**し、各自の作品・活動、それぞれの大学の相違などを語り合った。また、本学と東京都美術館が共同で実施している、アートを紹介してコミュニティを育む事業「**とびらプロジェクト**」を訪れ、**イスラエルで同様に実施されている芸術に関する社会活動との比較等、活発な意見交換が行われた。**



〈両校学生による公開型トークセッション〉



〈「とびらプロジェクト」への参加〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本学の教職員が**ベツアルエル美術デザインアカデミーに往訪したほか、連携3大学の教員を本学に招聘し、交流プログラムについて詳細な打ち合わせを実施**。産学連携については、陶芸工房や美術館のほか、**香川県**の文化振興課および**県立美術館長とインターンシップ等について協議**を行った。



〈ベツアルエル美術デザインアカデミーにおける交流プログラムについての協議〉



〈ミマール・シナン美術大学の教員を招聘し、学生交流計画の詳細を協議〉



〈アナドル大学の教員・学生と東京藝術大学の陶芸研究室〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

コーディネーター、プロジェクト専門スタッフ、サポートスタッフを新規雇用・配置。学生支援に係るネットワークの整備として、教職員がイスラエルに往訪した際に**派遣中の学生と面談し、現地の様子について聞き取り**を行った。また、**帰国留学生との連絡調整**を実施したほか、**在イスラエル日本大使館スタッフとも面会し、交流プログラムの支援について協議**を実施。



〈ベツアルエル美術デザインアカデミーのキャンパス〉



■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

大学Webサイトにおいて本事業の概要、計画、将来ビジョンおよび個別の**活動レポートを日本語・英語の双方で公開**。連携大学の教員・学生による本学の卒業・修了制作作品展覧会の鑑賞を実施。



〈本学の卒業・修了作品展で制作者の学生と交流する連携大学の教員・学生〉

2. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【Global Arts Crossing ～ 中東地域との戦略的芸術文化外交 ～】(選定年度27年度・主たる交流先(トルコ))

■ 交流プログラムの実施状況

平成28年度は、中東地域の治安情勢に改善の兆しが見られなかったため、昨年度に引き続き日本人学生の派遣プログラムを計画通りに実施することができなかった。一方で、連携大学学生の受入については、長期プログラム(交換留学)3名・短期プログラム15名と、**計画人数を上回る合計18名の学生を受け入れ、連携大学の教員招聘等と併せ多様な交流活動を実施した。**

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	17	1
学生の受入	14	18

東京藝術大学 × アナドール大学

本学・陶芸研究室の「**登り窯実習**」に、アナドール大学で陶芸を専攻する**学生が参加した**。窯入れ前の自作を各自トルコから持参し、本学・取手校地の宿舎にて日本人学生と寝食を共にし、連夜にわたって火の番を行い、本学学生と一緒に登り窯で作品を完成させた。また、学外活動として**豊福誠教授の個展会場を訪問し**、日本の陶芸作品の需要や市場について学習する機会としたほか、**日本とトルコの若い世代の陶芸家が交流する場**にもなった。



東京藝術大学 × ミマール・シナン美術大学

本学が開催している**古美術研究旅行**にミマール・シナン美術大学の学生が参加し、**通常の寺院への訪問とは異なる、専門分野の教員による指導のもとでの特別な拝観**を行った。また、KYOTO ART HOSTEL Kumagusukuを訪問し、現代美術を身近に感じられる試を行っている**宿泊施設を体験した**。奈良・京都の日程後は、本学の上野キャンパスにて**博士審査展を見学した**。日本の古都での伝統的な芸術文化と、東京での同世代による現代的な作品の両方を体験する内容となった。



東京藝術大学 × ベツアルエル美術デザインアカデミー

コリング・デザイン大学と本学との共同ワークショップに、ベツアルエル美術デザインアカデミーの学生と教員が参加し、日本の「**こども食堂**」をテーマに、**日本人学生と外国人学生との合同グループによるリサーチや提案、発表**を行った。ある課題をチームで解決していく方法論として、コリング・デザイン大学で使われている「**DKメソッド**」を実践した。この他**日本画・扇状画実習**では、日本画特有の画材や構図の考え方などを学びながら、植物をモチーフに扇型の紙面に絵を描いた。



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

アナドール大学とは**エラスムス+協定を締結し**、学生交流の機会および支援を拡充した。また、外国人留学生の受入時に、**デザイン・エンジニアリング会社、絵筆や絵の具の製造会社、上野の社の美術館等における体験活動や教育プログラム**を実施した。加えて、前年度の取組について「**自己評価書**」を取りまとめ、外部委員により構成される**グローバル戦略評価・検証委員会**を開催し「**外部評価書**」を作成した。



■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学教職員の派遣によるミーティングや定期的な連絡調整により連携大学との協議を進め、本事業における**共同教育プログラムや学生の相互派遣・受入**について綿密な打ち合わせを行い、本学における**各種工房等での実践環境・指導体制の整備**に繋がった。また、次年度以降の学生派遣に向けて、本学の教職員が**トルコ・イスラエルの現地環境を調査し**、大使館等とも情報交換を実施した。



■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

SGU事業で開催した「**Global Homecoming2016(元留学生招聘事業)**」に、本事業の連携大学の学生に**特別枠として参画**してもらい、中東諸国以外も含めた**ネットワークの強化・拡大**を図りつつ、本事業に係る様々な取組の**発信・成果の普及**に繋がった。

